

2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [金沢市立四十万小学校] 担当教諭名 [横山 鼓子] (6年1組 36名)

交流相手国 [ニカラグア]

海外学校名 [Escuela El Progreso] 担当教諭名 [Maria Auxiliadore / 夏目 泰子(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	互いの国の良さを伝え合おう	35

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	お互いの国の歴史と文化
絵に込めたメッセージ	相手の国に伝えたい、金沢の良さを描いた。ニカラグアに無いものを、そして、ニカラグアの友だちが興味を抱きそうなものを選び、喜んでもらえるような絵にしたいと願って描いた。中心で手を取り合う姿で、共に取り組めた嬉しい気持ちも表現した。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・“相手の国に良さを伝えたい”という動機を強く持ち、自分たちの暮らす町について調べる活動に意欲的に取り組めた。 ・相手国の良さ、自国がどう受け止められたか、など、互いに交流し合う良さを漢字ながら取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムでの交流がメインとなったため、教師が主導で発信することが多くなってしまった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・存在さえしなかった国について知ることができ、また、そこに暮らす同世代の仲間と交流できたことで、互いに知り合い・認め合うことの大切さ、楽しさを感じることができたようであった。とにかく、知りたい・伝えたいという意欲が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と同じ目線で、相手国と関わる楽しさを味わえた。相手の国の子どもがどうすれば分かるか、喜んでくれるかを考えて、児童との活動を考えていくことができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	画用紙を用い自己紹介カードを作成し、相手国に送付した。	英語を用いてカードを作成していたが、相手国の子ども達が英語を読めないため、日本語で作り直すことにした。そのことがかえって、相手を思うことにつながった。	総合
テーマ学習	10月～12月	金沢の史跡・伝統文化をたどる学習をもとに、金沢の良さを発信。金沢・ニカラグアの文化・生活の様子、学校生活などについて調べたことを通信にまとめて互いに交流した。	相手意識を強く持ち、自分たちの町の良さを調べていた。また、ニカラグアの友だちから返ってくる反応をととても喜んでた。	総合
構図決定	10月11月	作品のテーマ、構図のパターンについて児童と話し合い、相手国に具体的な絵のイメージを画像で送付し、相手国と合意した。	構図パターンと図案について、グループ毎に意見を出し合い、全体として金沢の良さが伝えられるように話し合いをすすめていた。	総合
壁画制作	11月12月	担当グループ毎に制作。過程が分かる様に、写真を撮ってアートマイル通信を作成。また、絵の紹介カードをグループ毎に作成し、それもフォーマルを通じて相手国に伝えた。	混色に苦労していたが、なんとか自分たちのイメージした絵に近づけるよう努めていた。半分白く残ったキャンバスを大事に扱っている姿が印象的だった。	総合
鑑賞・振り返り	3月	学年で活動を交流し合う会を開く。相手国から届いた絵を鑑賞し、これまでの取り組みを振り返った。	加賀友禅に対し、伝統的な織物を描いてくれたり、日本語でメッセージを書いてくれたことに驚き、喜んでた。	総合

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	実際に現地を訪れ調べたことと、相手国の良さとを比較したことで、より一層自分たちの暮らす町に親しみをもつようになった。
異文化の理解	A	4	ゼロからのスタートだったので、何もかも新鮮で、しかも日本との違いが多くあったので、その都度驚いていた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	3	英語を使う必要が全くなかった。共感という意味では、よくできた。また、説明も相手に上手く伝わるように考えていた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	個人差がある。グループとしては非常によくできていた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	相手のことを肯定的に受け止める態度が非常に良く育った。
協働する力 (役割分担・協力)	A	5	テーマ学習から、絵の制作まで、グループで話し合い、助け合って役割を果たしていた。
学習を追究する意欲	B	3	相手国とのやりとりで浮かんだ疑問をさらに返すことで高められたが、そのような学習の時間を十分保証してやれなかった。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	3	これも、個人差があった、全体としてはよくできていた。
作品を鑑賞する力	B	5	色の鮮やかさ、日本との違いを味わい、そこに描かれた相手国の良さを感じ取りながら鑑賞できていた。